



山本太郎氏



工藤昇司氏



正木義則氏

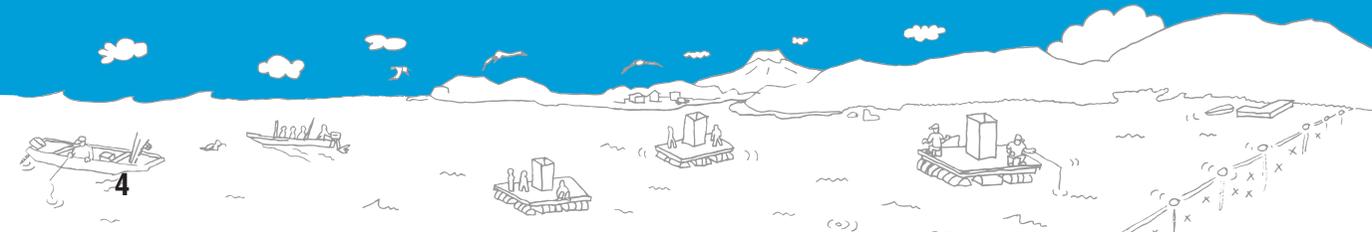


兼松伸行氏

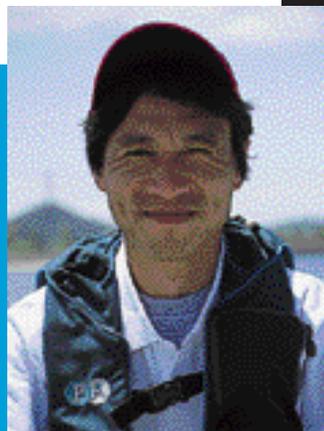
もう迷わない! 悩まない! オススメ・ブレンド大公開!

4人の名手がダンゴづくりを指南

ベースエサだけでも充分な威力を發揮するマルキューのダンゴエサですが、ブレンドエサと組み合わせることで、より強力な味方になってくれます。ここでは山本太郎氏、工藤昇司氏、正木義則氏、兼松伸行氏の4人のベテランかかり釣り師が、あなただけのためにオススメのブレンドパターンを大公開! ぜひ参考にして、釣り場でお試してください!



山本太郎のオススメ!



やまもと たらう
山本太郎

1956年生まれ、三重県津市在住。チヌの太郎と異名をとり、かかり釣りはもちろん、波止の落とし込み、紀州・ダンゴ釣りやチヌ釣りはなんでもこなす。その実践と理論には定評がある。

まずは「自分の」ベースエサを決めよう!

山本さんのアドバイスは、まずはひとつのベースエサを使いこなせるようになりましょうというもの。

そうすれば、あとは状況に応じたブレンドエサを混ぜることで、理想のダンゴができるといいます。

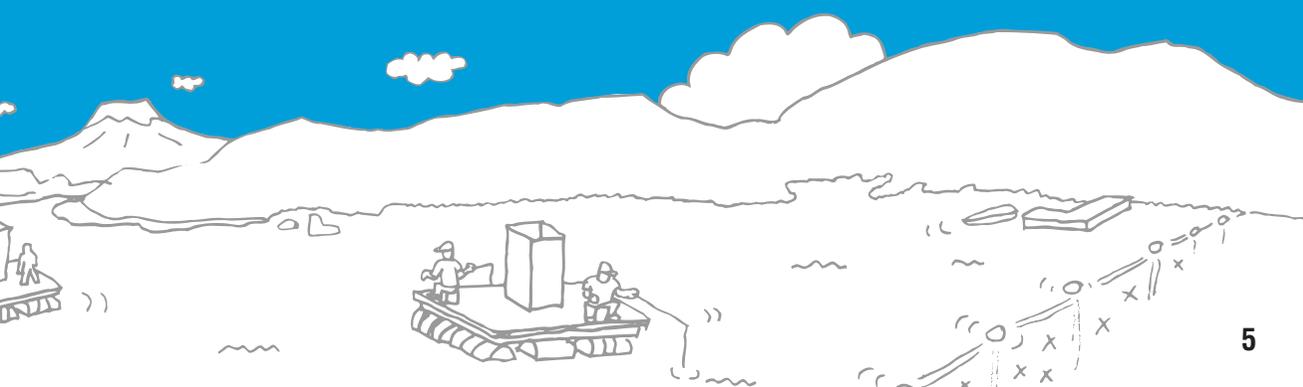
かかり釣り場というのは、水深が10mくらいで潮流の穏やかなところが多いんです。そういうことを踏まえて私がヒギナーの方にオススメしたいブレンドの方法は、「大チヌスペシャル」1と「本筏チヌ」1/2をベースに、あとは状況に応じてブレンドするエサを決めていくということです。

「大チヌスペシャル」は、厳選された集魚成分が豊富に入れているので、魚の寄りが強烈に実感できる配合エサ。また、粒子が非常に細かいので、少量の水でまとまる。つまり、割れの早いダンゴがつけれるということです。

「本筏チヌ」は重さがあるエサで、とにかく沈みが早いのが特長。少しぐらい水深のある釣り場でもしっかりと落ちていってくれますし、手返しも早まります。ただ、少しまとまりが強いので、「大チヌスペシャル」の1に対して1/2と、混ぜる分量はおさえるようにします。

具体的なブレンドエサの例を挙げれば、たとえばボラの活性が高いときは、ネバリを出すために「チヌパワー」を1、ボラは底にいる程度で中層にはいないときは「チヌパワー」を1/2、エサ取りは小魚だけという場合であれば、バラケ性を高めるために「細ひきさなぎ」を1/2と1加えるといった具合ですね。

夏の終わりの水温がもっとも高くなる時期から、チヌはさなぎの油分を非常に好むようになります。実際に付けエサとしても効果が出てきますしね。ですから、この頃からチヌが深場に落ちる11月いっぱい、12月中旬にかけては「細ひきさなぎ」の代わ





エサのもつ特性をしっかりと理解した上でダンゴづくりに取り組んで欲しいと、山本さんはいます。

山本太郎氏のオススメ・ブレンド！

水深が10m前後で潮流が穏やかな、一般的な釣り場でのブレンドパターン



大チヌスペシャル
1袋



本筏チヌ
1 / 2袋

+

+

ボラの活性が高いときは



チヌパワー
1袋

ボラは底にいる程度で、中層にはいないときは



チヌパワー
1 / 2袋

or

or



細びきさなぎ 1 / 2 ~ 1袋
(夏の終わり頃からの高水温期は、「細びきさなぎ」の代わりに「ニュー活さなぎミンチ」を使用)

ダンゴはかき釣り師にとって、とても強い味方になる存在。もっと各エサの性質を深く理解すれば、ダンゴづくりはよりおもしろくなります。そして、状況に合わせたダンゴをつくれるようになれば、今まで以上のスパーウェポンになってくれるんです。

「このエサは水分を多量に含んでいるためネバリが出やすく、最後に混ぜるとタマがでやすくなってしまう。ですので、たとえばいくつかのエサをブレンドする場合は最後に混ぜるのではなく、ベースエサをつくっている段階で入れるのがコツ。その上でしっかりと時間をかけて、まんべんなく行き渡るように混ぜてください。」

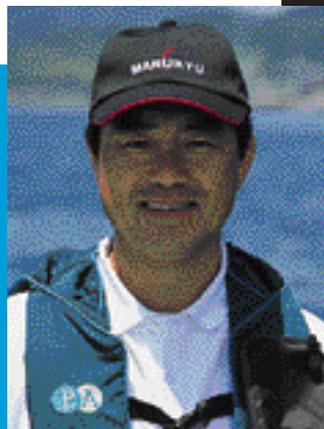
私がダンゴづくりにおいて、これからかかり釣りにチャレンジしてみようという方にお伝えしたいのは、「まずは自分の好きな使いやすいベースエサを決めてしましましょう」ということです。ある程度釣り場の条件に合わせてさえいけば、それが「本筏チヌ」であっていいし、「大チヌスペシャル」「やわらかダンゴ」であっていいし、とにかくひとつのベースエサを、自分のものにしてしまってください。そうすれば、あとは状況に応じて各特性を持ったブレンドエサを混ぜればいわけです。だから、そういうわけで、「昨日はこのパターン、今日はこのパターン、明日は……」とやっているといつになっても自分なりの答えは出てこないと思っただけです。

「ニュー活さなぎミンチ」を使うようにします。

このエサは水分を多量に含んでいるためネバリが出やすく、最後に混ぜるとタマがでやすくなってしまう。ですので、たとえばいくつかのエサをブレンドする場合は最後に混ぜるのではなく、ベースエサをつくっている段階で入れるのがコツ。その上でしっかりと時間をかけて、まんべんなく行き渡るように混ぜてください。



工藤昇司のオススメ!



くどうしょうじ
工藤昇司

1951年生まれ、大阪府大阪市在住。チヌ竿「箭(つかさ)」を制作。チヌのかり釣り一筋に数釣りを得意とする一方、大型指向でもある。

比重、集魚性、 ネバリとバラケが3大要素!

上記の要素のなかでも、工藤さんは特にエサ取り、チヌの活性に応じてネバリとバラケのバランスを取ることが大切だと語ってくれました。釣り場の状況に応じたダンゴづくりが重要だということです。

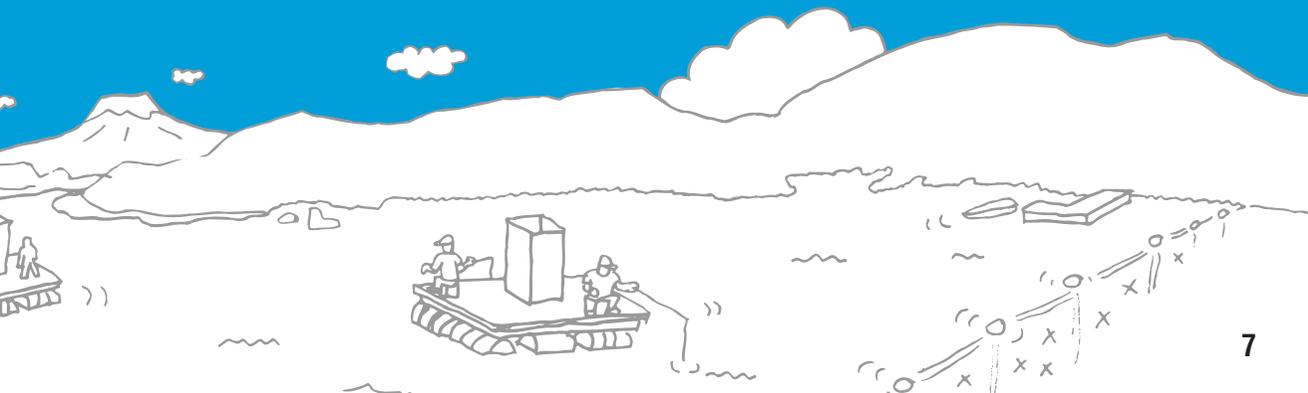
私がダンゴの大切な要素と考えるのは、
1・比重 2・集魚性 3・ネバリとバラケのバランス。この3つを考えて、そのときの釣り場の条件にマッチしたブレンドパターンを考えるようにしています。

ベースとして使うのは、「伝統チヌ筏」もしくは、「本筏チヌ」。この2つの配合エサの特長は、まず比重。そして、ネバリとバラケのバランスがとれているので、単体でも握り加減によってバラケの良好なダンゴをつくれることです。ただ、これだけでは集魚力が弱いので、バラケ具合を考えながら集魚性の高いブレンドエサを加えます。

一般的な釣り場では、「伝統チヌ筏」1+「大チヌスペシャル」1/3+、チヌスパイス」1/3+、「ニュー活さなぎミンチ」1、潮の速い釣り場では、「伝統チヌ筏」1+、やわらかダンゴ」1/2+、「大チヌスペシャル」1/3+、「チヌパワー」1/3+、「ニュー活さなぎミンチ」1とします。

よほどエサ取りが多いとき以外は集魚性をもたせたダンゴがよく、狙うチヌの型とエサ取りの状況によって、ダンゴの練り加減を変えることが必要になってきます。

エサ取りが少なく、シラサエヒなどを付けエサにする小型中心の釣りでは、ダンゴはやわらかくして手返し重視のダンゴにします。やわらかいダンゴの特長は、片手で簡単に丸めることができるため、手返しを多くできること。さらに流れが速いポイントでも、沈んでいく途中で小さくなりにくいため、竿下のポイントをダイレクトに攻めることができるのです。しかし、自身で崩れる要素が少ないので、ボラなどのエサ





的確に状況を読みとってつくったダンゴを、やさしく海中に投下する工藤さん。

工藤昇司氏のオススメ・ブレンド！

一般的な釣り場でのブレンドパターン



伝統チヌ筏
1袋

+



大チヌスペシャル
1 / 3袋

+



チヌスパイス
1 / 3袋

+



ニュー活さなぎミンチ
1袋

潮の速い釣り場でのブレンドパターン



伝統チヌ筏
1袋

+



やわらかダンゴ
1 / 2袋

+



大チヌスペシャル
1 / 3袋

+



チヌパワー
1 / 3袋

+



ニュー活さなぎミンチ
1袋

取りが突いて割ってくれる以外では、糸をつまんでエサを抜く動作が必要。このエサを抜く動きで付けエサが浮きやすくなることから、エサ取りが多いときや大型狙いには不向きともいえます。

一方、水分少なめでバラケ重視のダンゴは、沈下途中でも外側からバラバラと崩れ、着底後も水分を吸い込みながらバラケていく特性があります。このため、握り加減でバラケ具合をコントロールできます。また、付けエサを浮き上がらせることなくダンゴが割れるのでエサを取られにくくなり、より自然にタンゴから付けエサが出るので、大型に警戒心を与えにくくなります。

ダンゴが割れないからといって、竿をおおるのはタブーです。ダンゴはより自然に割れるように、握り加減で調整してください。水深1ヒロに対して1回握るのが目安です。なお、ダンゴの割れ加減は、エサ取りが多いときほど着底してからの時間を長くする必要があります。チヌの活性が高ければエサ取りを散らしてくれるので問題はないのですが、そうでない場合はチヌが寄ってくるまでに、エサ取りに付けエサを取られてしまうのです。

また、釣りをしている、急に中層でボラにタンゴを割られるようになることがあります。こんなときには、固く握ることやボラ寄せのタンゴを別に打ち込むことで対処するのですが、それでも割られてしまうと、きは、「チヌパワー」などのネバリの強いエサを加えて調整します。ただし必要以上にネバリをつけてしまうと、底でなかなか割れなくなるので注意してください。



正木義則のオススメ!



まさきよしのり
正木義則

1954年生まれ。徳島県徳島市在住。ホームグラウンドは徳島県鳴門の堂浦。急潮の釣りこなしには定評がある。釣りの他にも障害者のボランティア団体に所属し、活動している

活性に合わせた 2つのパターンを紹介!

チヌとの駆け引きが、かかり釣りの魅力だという正木さん。
難しければ難しいほど、熱くなれるといいます。

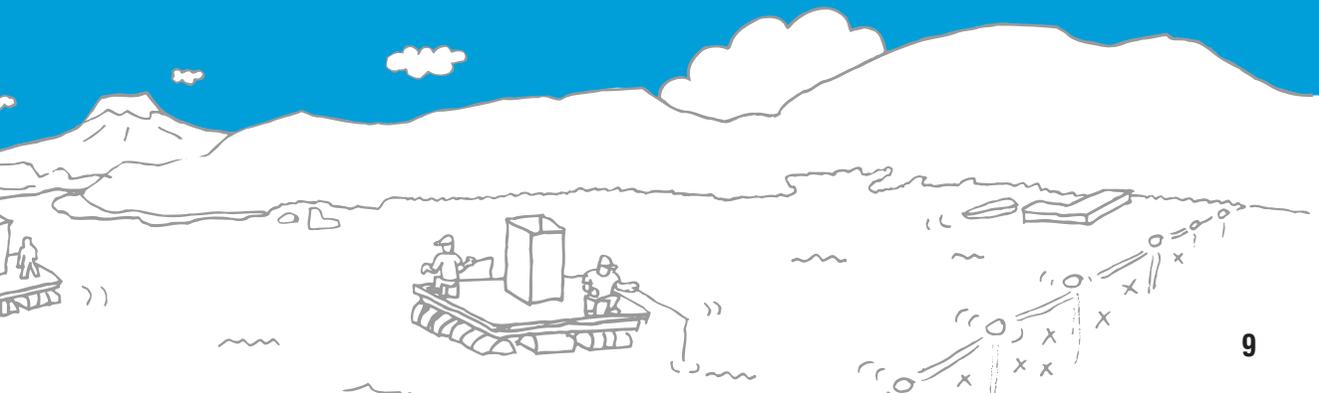
そんな氏が、かかり釣りビギナーにとっておきのブレンドパターンを教えてくださいました。

私は1月から乗っ込み期までの食いが渋い時期は、ダンゴは沈下途中にしっかりと濁りが出て、底に着いてから自然な感じで付けエサが出るようにしたいので、両手で握る、ボソボソのダンゴに仕上げるようにしています。少し時間のかかる釣りになりますが、遠巻きにいるチヌが警戒心を抱かずに近づいてきて、付けエサを口にするというわけです。「北陸チヌ」1/2と「本筏チヌ」1+、「チヌパワースペシャルMP」1+、「ニュー活さなぎミンチ」1というものが、そのブレンドパターンになりますね。「北陸チヌ」はバスバサのダンゴに向いている、バラケやすいベースエサ。ブレンドするエサを選ばず何にでも合って、握り加減によって思い通りのエサがつくれます。集魚力も充分にありますね。「本筏チヌ」も「北陸チヌ」と同様に、とてもブレンド性に優れているのが魅力です。

「チヌパワースペシャルMP」は、マルキユの配合エサのなかで最強の集魚力を誇るエサ。MP(マキシマムプロテイン)酵母という成分が抜群の寄せ効果を発揮するので、最近は大愛用するようになってます。

「ニュー活さなぎミンチ」を入れているのは、やはり集魚効果を求めています。特に「ボラでもなんでもいいから、とにかく魚を寄せたい!」というときには重宝しますね。エサ取りでも集めさえすれば、その魚がエサを食べている音とか気配を感じて、チヌも寄ってくると思っんです。エサ取りを集めるのも、チヌを寄せるための手段のひとつなんです。

次は中・小型が数釣れる、魚の活性が上





「ニュー活さなぎミンチ」は、とにかく魚を寄せたいときに非常に重宝するエサだという正木さん。

正木義則氏のオススメ・ブレンド！

1月から乗っ込み期までのブレンドパターン（水温が低く活性が低い時期の、両手で握るダンゴ）



北陸チヌ
1 / 2箱

本筏チヌ
1袋

チヌパワースペシャルMP
1袋

ニュー活さなぎミンチ
1袋

乗っ込み終盤から12月いっぱいまでのブレンドパターン（水温が高く活性が高い時期の、片手で握るダンゴ）



赤だんごチヌ
1 / 2箱

やわらかダンゴ
1袋

本筏チヌ
1袋

ニュー活さなぎミンチ
1袋

チヌパワーMギ 1 / 2袋
(よりバラケを強くするときに使用)

がってくる乗っ込み終盤から12月いっぱいまでのオススメのパターンを紹介しましょう。この時期は、片手で握れて手返しが早まる、攻撃的なダンゴがいいと思います。両手で握るダンゴはどうしても時間がかかってしまいますので、この時期には不利だと思っただけで、仕上げの感じとしては、水分を多めにし、耳たぶくらいのやわらかさにします。

具体的なブレンドパターンは、「赤だんごチヌ」1 / 2箱、「やわらかダンゴ」1箱、「本筏チヌ」1箱、「ニュー活さなぎミンチ」1。「赤だんごチヌ」はネバリがあるので、片手で握るには最適なベースエサですね。「やわらかダンゴ」は、比重とネバリがポイント。「赤だんごチヌ」と合わせることで、ソフッと落ちていくような感じのダンゴになります。「本筏チヌ」と、「ニュー活さなぎミンチ」は先ほど紹介したとおり、それぞれ何にでも合うブレンド性の高さで、強い集魚力がブレンドする理由です。なお、もう少しバラケ性が欲しいときは、「チヌパワーMギ」を1 / 2ほどプラスします。

ちなみに私は、付けエサはシラサエビをメインに使用しています。春先の一時期を除いてはほぼ周年、釣り場を選ばずに活躍してくれるのがその理由なんです。初心者の方も最初のうちは、あまり付けエサのロケーションということにこだわらず、なにかひとつ自分のエサを持つようにすればいいんじゃないでしょうか。釣り場にいると迷った挙句に一日が終わってしまうというのは、入門早々にはよくあることですからね。



兼松伸行のオススメ!



かねまつ のぶき
兼松伸行

1965年生まれ、大阪府大東市在住。根っからのトーナメンターで、JFTの「全日本チヌ釣り王座決定戦」で5回優勝などの輝かしい戦歴をもつ。

夏場は数釣り、冬場は大型狙いを!

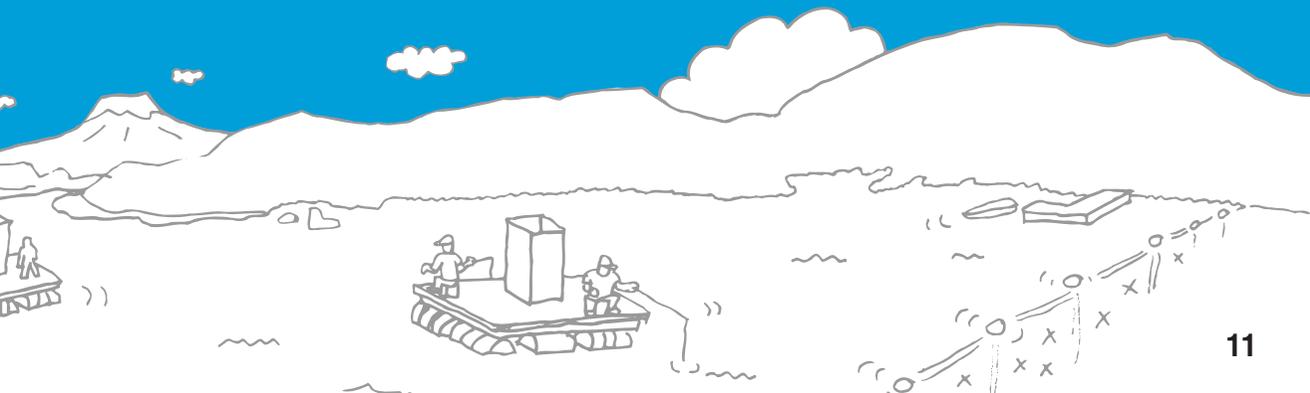
兼松さんのダンゴ使いの極意は、とにかく魚を寄せること。そのため、しっかりとした理論に基づいてダンゴをつくり、そして手返しを怠らずに打ち続けるのだそうです。

これからかかり釣りに入門なさるという方には、夏からの数釣り用のパターンと、冬場から春先くらいに大型狙いのパターンを紹介させていただきます。

まず数釣り用の場合、「本筏チヌ」1+「やわらかダンゴ」1/2も、大チヌスペシャル」1/2（水深が浅いときは「オカラだん」1/2）+「チヌスパイス」1/2+「細びきさなぎ徳用」1/2+「赤ダンゴチヌ」1/4+「チヌにこれだ!!」1/2+「ニュー活さなぎミンチ」1.5+2というブレンドがオススメ。このときの付けエサは活きエサのシラサエビがメインです。で、エサへのダメージを考えて水分量を多めにしてやわらかくし、手返しをよくするために片手で握れる小さなダンゴに仕上げます。なので、このブレンドのエサは基本的に、粒子の細かいもので揃えています。

具体的なブレンドの理由としては、ベースとなる「本筏チヌ」と「やわらかダンゴ」に関しては、比重が大きく、粒子が細かいということですね。片手で握るということはダンゴが小さくなるわけですから、どうしても重さが必要となり、粒子の細かさも求められるんです。

「大チヌスペシャル」は、こちらにも比重の大きさが選択理由。ただし水深が浅い場合は、軽めで使い勝手のよい「オカラだん」に変更します。「チヌスパイス」はニンニク系のブレンドエサで、強烈に魚の活性を上げてくれるのが特長。私の大のお気に入り。で、ほとんどのシーンで使うようになっています。「細びきさなぎ」に求めているのは集魚力。「荒びきさなぎ」ではなく、「細びき





ときにはダンゴが効いているエリアだけではなく、その周辺を探ることも大切だという兼松さん。

兼松伸行氏のオススメブレンド！

数釣り用ブレンド（シラサエビをメインに使う、水分を多くした片手で握れるやわらかいダンゴ）



本筏チヌ 1袋 + やわらかダンゴ 1/2袋 + 大チヌ スペシャル1/2袋 (水深が浅いときは、「オカラだんご」1/2袋) + チヌスパイス 1/2袋 + 細びきさなぎ徳用 1/2袋 + 赤だんごチヌ 1/4箱 + チヌにこれだ!! 1/2本 + ニュー活さなぎミンチ 1.5 - 2袋

大型狙いブレンド（水分が少ない、両手で握るバスバサのダンゴ）



伝統チヌ筏 3袋 + 紀州マツハ 攻め深場 1袋 + 荒びきさなぎ徳用 1袋 + チヌスパイス 1袋 + 赤だんごチヌ 1/2箱 (ボラの少ない場所では、「チヌパワー徳用」1袋) + チヌにこれだ!! 1本

「さなぎ」にしているのは、少しでも粒子を細くしたいというのが理由ですね。「赤だんごチヌ」は、片手で握れるネバリを出すために加えます。もちろん集魚力にも優れていますね。そして最後に、さなぎエキスとの「チヌにこれだ!!」を足して完成です。もう一つのパターンの大型狙いの場合も、両手で握る、水分少なめでバスバサの大きなダンゴに仕上げます。沈下途中の濁りを出したいのと、着水後に付けエサが自然に出るようにしたいからです。

具体的なパターンとしては、「伝統チヌ筏」3+「紀州マツハ攻め深場」1+「荒びきさなぎ徳用」1+「チヌスパイス」1+「赤だんごチヌ」1/2（ボラの少ない場所では「チヌパワー徳用」1）+「チヌにこれだ!!」1という感じですね。

ベースとして使っている「伝統チヌ筏」と「紀州マツハ攻め深場」は、ともにヌカ感覚で使える配合エサ。ネバリが出ずにバスサッという感じで割れ、使いやすさは抜群です。「荒びきさなぎ」は、集魚力とバラケ性を考えて混ぜるようになっています。「チヌスパイス」は、先ほども述べたように活性を上げるためにブレンド。ほかに「赤だんごチヌ」はネバリと増量効果、「チヌパワー」はネバリ、「チヌにこれだ!!」は集魚力を求めて入れるようになっています。

ダンゴ使いで私が皆さんにお伝えしたいのは、「とにかくエサ取りを嫌うな」ということ。チヌだけを寄せられるダンゴというのは存在しないわけですから、手返しを怠らずに数を打ち、まずは魚を寄せることが大切だと考えています。

